

③ 杉並区立和田中

杉並区立和田中学校にお邪魔してきました。目指すはあの民間校長の「藤原和博」校長先生です。彼の「世の中科」は余りにも有名ですが、校長室にお邪魔しててみて驚いたのは、漫画が沢山あったことです。普通の本も沢山ありましたが、校長室に漫画とは…。そしてギターが目に入りました。藤原校長は「校長室」を子どもたちの溜まり場にしていたのです。



③ 学校モードではない場所が大切

藤原先生はこう言います。「学校の中に学校モードではない場所が必要なんです。」和田中には保健室、芝生、図書室、そして校長室の4箇所が学校モードではないところです。「昼休みになると子ども達が30人くらい校長室に遊びにくるそうです。そして芝生の上では子ども達が寝そべって、漫画を読む…。しかし授業を見学させてもらおうと、かなり学校モードで集中していました。新座の子ども達は定期テストが終わっても、やれノート提出だ、やれ問題集提出だと学校モードが続きます。先生も生徒も疲れて当たり前です。授業は集中し、遊ぶ時は遊ぶことで心のバランスはとれるのに…。藤原校長と僕の共通点は、授業のコマ数を増やすことが最大の改革」思っているところです。僕の考えでは40分授業も可能ですが、和田中は45分授業。兎に角、今の公立にはコマ数を増やすことが一番大切ということでは一致していました。それが前提となって、色々な取り組みができるのです。和田中は空き教室にも廊下にもゴミは落ちていません。教室の床はフローリング。トイレは自動で水が流れる新しいトイレでした。教育費は未来への投資」です。学ぶことは沢山ありました。

一生懸命

四学期制

和田中で驚いたのが四学期制でした。平成17年度から春学期、夏学期、秋学期、冬学期と四学期制をとっているのです。3学期制から2学期制に移行し、失敗している学校がたくさんある中で、季節感溢れる4学期制。通知表も4回出すのだそうです。何よりの狙いは夏学期の中に夏休みがあるということ。だらだらした夏休みを過ごさせたくない…。というアイデアです。土日休みなって子ども達の学力は確実に落ちました。土日と遊んだ子達は月曜日に勉強モードになれないのです。それを阻止しようとしたのが「トテラ」(土曜の寺子屋)です。土曜日に学校で「塾」をやっ飛ばそうという発想です。勿論強制ではありません。月に6000円ほどのお金を払って、学校の中にある「塾」へ行く…。新座でもできそうです。



たかやん塾の子ども達と

たかやんのプロフィール

1954年、東京都新宿区生まれ。西戸山小中学校から都立石神井高校を経て北海道大学へ。大学3年の時、朝日新聞の「今学校で！」を読み、教師になることを決意する。1977年新座五中に赴任。五中で10年、六中で10年、二中で1年、計21年間を子ども達と一緒に生き、テニス部に燃える。1998年、新座市新堀1丁目に「たかやん塾」を開校。2004年2月の選挙で、お金をかけずに戦い1272票で当選。小中学生と共に歩みながら「教育問題」「財政問題」を中心に発言を続けている。野寺4丁目、畑中3丁目を経て、現在は石神3丁目に在住。趣味はテニス、サッカー、囲碁、将棋、料理。二男、一女の父。